

6 データマネジメント／デジタルワーカー

# 高度なスキルを必要としないデータ可視化・分析と デジタルワーカーによる自動化でDXを促進

NTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）はデータ活用プラットフォーム“Smart Data Platform（以下、SDPF）”に簡単な操作で利用できるデータ可視化・分析サービスを追加した。また「デジタルワーカー」によりデータマネジメント業務の抜本的なデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）を可能にする取り組みを進めている。

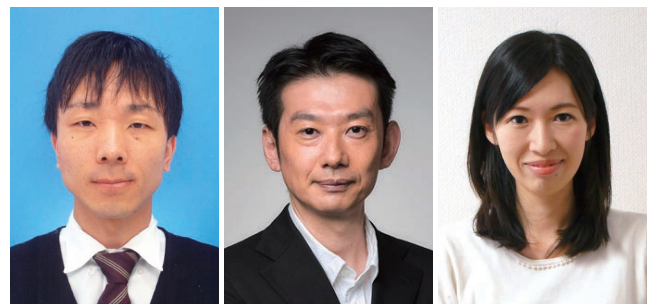
## 収集したデータを可視化・ 分析に適した状態で統合

SDPFには点在するデータを収集するだけでなく、活用しやすく統合するための機能が用意されている。

「ITシステムのモダナイゼーションに伴い、アプリケーションごとにサイロ化されていたデータの連携も必要になります。Peer to Peer型のデータ連携では各データを最新かつ欠損のない状態に保つことが難しいため、SDPFではHUB型のデータ連携を可能にしています。具体的には米インフォティカ社のデータ統合プラットフォームを活用して「イ

ンフォマティカソリューション”をサービスとして提供しています。データを統合し、可視化や分析に適した状態にできます。この仕組みによるデータ活用が社内外で進んでいます。」（三枝氏）

SDPFのサービスメニューにはNTTデータのデータマネジメント基盤“iQuattro®”も含まれており、企業をまたがるサプライチェーン全体を対象とするようなデータマネジメントも可能となっている。



NTT リミテッド・ジャパン株式会社 ICT インフラサービス部  
クラウドサービス部門  
(左から) 主査 三枝 俊氏 鈴木 亮太郎氏 古田 あやか氏

## データマイニングやBIを 容易にする各種サービスを拡充

専門人材の不足がデータ活用の妨げにならないよう、NTT Comは高度なスキルがなくてもデータ可視化・分析に取り組めるサービスを拡充している。いずれも高品質・高信頼クラウド“Enterprise Cloud2.0”上で提供されるので、データの格納場所のクラウドも統合的に管理可能となる。

### Visual Mining Studio®

シンプルな操作でデータマイニングに必要なデータの前処理から、実際の分析まで行えるツール群を提供している。株式会社NTTデータ数

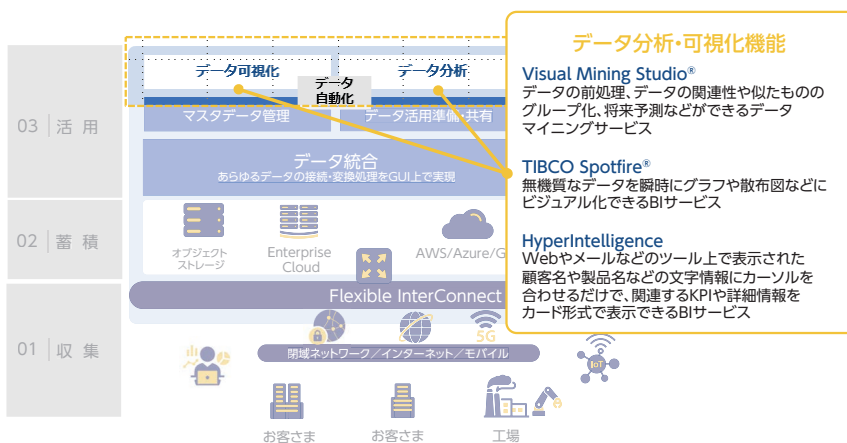


図1 専門性を必要としないデータ分析・可視化サービスを拡充

理システムが販売するソフトウェアを月または年契約で利用できるようにしたものだ。商品のレコメンデーションなどに役立つ「アソシエーション分析」、顧客のセグメンテーションなどに役立つ「クラスタ分析」、需要や購買の予測などに役立つ「分類分析」の機能が用意されている。

### TIBCO Spotfire®

グループ会社の NTT コム オンライン・マーケティング・ソリューションが日本において総代理店となっている TIBCO Software Inc. の BI / BA ツールを、月額サブスクリプション契約で利用できるようにした。

「GUI ベースで簡単にデータの前処理や可視化を行えるほか、多様なグラフの作成や地図連携も容易です。分析に関しては特に統計解析機能が優れています。」(鈴木氏)

### HyperIntelligence

ブラウザやメーラー上に表示された顧客名や製品名のテキスト上にマウスカーソルを合わせるだけで、関連する KPI や詳細情報をカード形式で表示するマイクロストラテジー・ジャパン株式会社の BI ツール “HyperIntelligence” を月額料金で利用できるようにした。

「営業やコンタクトセンター業務の担当者が顧客や製品の情報、サービス状況やトラブル対応状況を確認する際、関連するシステムの画面を開くことなく、ブラウザだけで確認するといったユースケースを想定しています。」(古田氏)

表示データの準備には前述のインフォマティカソリューションを利用することができ、リアルタイムにデータソースと連携することも可能

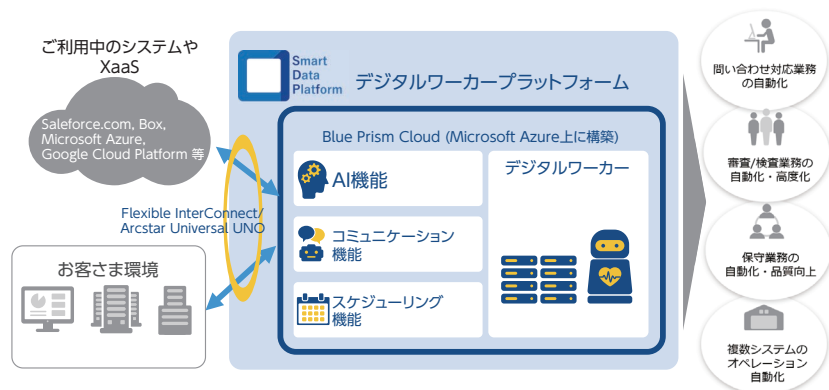


図2 デジタルワーカープラットフォームサービス概要

となっている。

### データマネジメント業務を自動化し DX への注力を可能に

データマネジメント業務には個別のアプリケーションや各種ドキュメント、メールからデータを収集/成形し、データウェアハウス (DWH) やデータ・レイクに登録するオペレーションが含まれる。NTT Com はデータ利活用が進むほど増加するこれらの業務の効率化に向け、「デジタルワーカー」の活用にも注力している。

デジタルワーカーは近年急激に注目されるようになった概念であり、定型業務を自動化する RPA よりもインテリジェントな自動化を行うというものだ。RPA に加え AI などを活用することにより、人の判断が介在する業務も含め幅広い自動化を可能にする。人によるミスや作業レベルのばらつきを無くすことに加え、余裕が生まれた人的リソースを DX 推進に活かすという狙いもある。

### デジタルワーカー開発・運用のためプラットフォームサービスを提供

2020 年 10 月 6 日にはエンター

プライズ向けインテリジェントオートメーション分野のグローバルリーダーである Blue Prism 社との協業を発表した。2020 年度中にはデジタルワーカーの開発・運用に必要な機能を備えたプラットフォームを、SDPF のサービスメニューに追加する予定だ。

主な機能は、自然言語や非構造化テキストの解析などの「AI 機能」、メールや SMS、チャットボットなどを活用できる「コミュニケーション機能」、デジタルワーカーの実行を自動制御する「スケジューリング機能」の3つ。“Flexible InterConnect” との連携により、オンプレミス環境からクラウドまで各所に存在する ICT リソースにセキュアにアクセスすれば、より幅広い業務の自動化を実現可能だ。

「発表以来、既に多数のご相談をいただいております。サービスへの関心の高さがうかがえます。将来的には NTT Com がデジタルワーカーを作成し、デジタルワーカーそのものを提供して人材派遣のデジタル版のようなサービスも検討しています。今後にご期待下さい。」(古田氏)